

### Ⅲ 結論と若干の提言

#### 1. 全体を通しての結論

本研究は、不明のところが多、我が国の外国人女性セックス・ワーカーの実態を知るために行なわれたものである。そのために、われわれは、①売春・風俗関係事犯に関与した外国人女性257名に対する質問紙による調査と、②国内の女性セックス・ワーカーとの関連が深いシェルター「ヘルプ」と在日タイ王国大使館の2ヶ所の責任者に対するインタビュー、さらに、③タイ国内の関連施設と日本においてセックス・ワーカーとして働いていた2人の女性に対する聞き取り調査を実施した。

それぞれの調査結果については、その要約が、Ⅱ-1-6、Ⅱ-2-4、Ⅲ-2-4に述べられている。ここでは、今回の調査全体を通して、なぜ彼女らがセックス・ワーカーという仕事を選んだのか、もしくは選ぼうとしているのかという、より基本的な心理学的メカニズムについて考えてみたい。

我が国には、現在も正確な数はわからないとしても、かなりの数の外国人女性がセックス・ワーカーとして流入している。このことは、既存のいくつかの資料によって確かめられている。<sup>1) 2) 3) 6)</sup>なぜ彼女らはなぜ「売春」という仕事を選んだのだろうか。また、そのような彼女らの社会・経済・文化的な背景には何があるのだろうか。

一般的には、経済的な貧困のみが強調されていて、そのことが、彼女らが日本で「売春」している主たる理由であるという説明がなされている。しかし、今回の調査は、問題はそれほど単純ではないということを示していた。つまり、単一の要因だけでは、彼女らが「売春」という仕事をしていることを説明しきれないのである。われわれは、彼女らの背後にある「複雑な理由」を、心理学的な切り口から検討することにした。

以下のところで、タイ国の女性の場合を例にしながら、われわれの考え方を述べることにする。

なぜ彼女らが、小学校、もしくは中学校を卒業するかしないかの年齢で、セックス・ワーカーのような仕事につくのだろうか。我が国では、現在のところそのようなことが考え難いと思われる。しかし、タイ国の北部や東北部では、そのような娘たちがいることは珍しくないようだ。何故だろうか。この理由はかなり複雑なようだ。というのは、いくつかの要因が複合して、彼女らにセックス・ワーカーという仕事を選ばしていると思われるからである。タイ国の場合は、「貧困」、「情報伝達の広域化」、「低学歴」、「価値観の変容」、「伝統的文化の崩壊」などの要因が考えられ、それらの要因が複雑に絡み合って娘

たちの「決断」を促しているようである。

もちろん、これらの要因は、それぞれが単一でも、「売春」という職業を選択させる要因となり得る。しかし、「性を売る」というような、少なくともタイ社会では、表面的には受け入れられていないという「文化」がある以上、そのような仕事を選択するためには、彼女らを決断させるより強い動機、もしくは強力なエネルギーが必要となる。この強い動機は、彼女らのフラストレーションによって生じているものと思われる。このフラストレーションが、前述の複数の要因を複合させて、より強い「売春願望動機」となっているのではないだろうか。

ここでのフラストレーションは、自分たちも都会の人と同じように、物質的に「豊かになりたい」、「便利な生活をしたい」という気持ちが、現実には殆ど満たされないことによって生じている。一般的に言って、その人が「親」であれ「娘」であれ、その欲求が強ければ強いほど、このフラストレーションは強烈なものとなるだろう。

フラストレーションは人の心のバランスを崩す。つまり、われわれはフラストレーションによって、心理的に不安定な状態になるのである。われわれは、この不安定な心理状態を、意識的にせよ、無意識的にせよ、とにかく元の安定した状態に戻そうとする。このことを、タイ国北部と東北部の人たちについていえば、「貧困脱出のための手段を選ばなくなる」、「価値観を変え‘売春も可’と考える」、「娘が親の面倒を見るという伝統文化を拡大解釈する」などを試みるのである。このような試みは、多くの場合、自分を正当化するために無意識のうちに行なわれているのが常である。正当化は、フラストレーションの度合いが強ければ強いほどより頻繁に、かつより強力に行なわれる。

ところで、われわれが想定した要因には、正当化しやすい要因と、正当化しにくい要因がある。例えば、「情報伝達の広域化」という要因は、彼らのフラストレーションを扇動するが、正当化の対象にはなりにくい。「低学歴」という要因も正当化しにくい要因の一つと考えられる。というのは、学歴はかなり固定的な事実だからである。しかし、この「低学歴」という要因は、彼らのフラストレーションを強めるというよりも、彼らの行動の選択肢を狭める作用をする。つまり、売春を可とする「マイナスの結論」を早める作用をするのである。この意味で、「低学歴」は、彼らの「決断」の望ましくない促進剤であると考えてよいだろう。

以上がわれわれの考える、タイ国のある地方において、親も娘もセックス産業を許容する、もしくは許容するようになった心理学的なメカニズムである。このような考え方は、あえていえば「複合要因仮説」とでもいえるのだろうか。

われわれは、ここではタイ国の調査結果を基にして、若い娘たちがセックス・ワーカーとなる「理由」を考えてきた。しかし、われわれの「複合要因仮説」という考え方は、タイ国以外の国でも通用するのではないと思われる。というのは、国によって「複合要因」の中身は違って、それらの要因が輻輳しているという意味では同じではないかと考えられるからである。

当然のことながら、われわれの仮説を証明するためには、今後のより詳細な調査研究が必要であることはいうまでもない、いずれにしても、外国人のセックス・ワーカーの問題を解決するためには、表面的な現象だけでなく、より根本的な理由、もしくはメカニズムを明らかにする必要があると思われる。

## 2. 若干の提言

最後に、外国人のセックス・ワーカーの流入を防ぐためには、どのような対策が考えられるかについて若干の提言を試みたい。すでに述べたように、外国人女性がセックス・ワーカーになる理由はかなり複雑で、複数の要因が輻輳している。しかも、それらの要因は、すぐに解決しうるようなものではない。しかし、あえてその対策について述べると以下のようなになる。

### 1) 国内の対策について

- ①外国人セックス・ワーカーの人権が著しく犯されている場合を早急に発見して、その取締りを強化する。
- ②外国人セックス・ワーカーを搾取している組織と雇主に対する罰則を強化する。
- ③以上の目的のために、関係官庁の連絡をより一層密にする。
- ④今後は「入国」だけでなく「出国」についても監視を厳しくする。
- ⑤今後、日本政府に当該国の住民の教育レベルを向上させるための積極的な「投資」をしてもらう。この対策は、時間がかかるかもしれないが、結局は最も本質的な「効果」につながるものと思われる。

### 2) 当該国に対する対策について

- ①今後は、帰国時の「入国」についての審査を厳しくしてもらう。
- ②教育のレベルアップを図ってもらう。このことによって、彼女らの職業選択の幅が広がり、セックス・ワーカーにしかねないという現状が改善されるだろう。このためには、日本からの強い「援助」が求められることになるだろう。